

【富士】ふじ その2

絵画に描かれた富士の図で現存する最古の作例は東京国立博物館蔵の〈聖徳太子絵伝〉です。平安時代後期の作で太子の生涯を図説したものです。

この中に愛馬黒駒に乗った太子が空を飛び富士山の辺りを飛んでいる様が描かれています。絵師が『伊勢物語』の記述を参考にしたのか、実見したのかわかりませんが、「比叡の山を二十ばかり重ねあげたらむほど」に、播鉢を伏せたような「塩尻のやうに」という雰囲気を留めた図像です。

富士の図は時代と共に様式の変遷がみられます。

室町時代、漢画(水墨画)と日本の風景を画題とした大和絵との融合が興り、水墨画の技法で描かれた富士山が出現しました。

この時代注目すべきことは、山頂が三山に分かれたシンメトリーな富士の姿が数多く描かれていることです。これは三峰型と呼ばれますが、なぜ室町時代になって富士山頂は三峰型に描かれるようになったのでしょうか。

今のところ、山頂には八つの峰があり、それを三峰に表したとか、富士山信仰の拠点の浅間大社から見える富士山の姿に基づき、「三観一心」「三密同体」を表すといった説があるようです。

決定的な根拠を持つものではありませんが私の思うところを述べさせて下さい。

中国古代の漢籍(淮南子など)に、崑崙山の山頂が三峰であるという記述があり、また絵画的作例も残っています。この伝統に倣い仏教世界の代表的山である靈鷲山も三峰型に描いた作例があるのです。(玉虫厨子宮殿部背面など)

新しく渡ってきた仏教文化を伝統的な言葉・図像に置き換えて解釈しようとした結果です。

同様に、名山のあるべき姿として富士山も三峰型に描いたのではないのでしょうか。漢画と大和絵との融合が興った室町時代は、中国文化の影響を強く受けた時代でもあることも説の補強となるでしょう。

一富士二鷹三茄子という言葉があります。

・初夢に猫も不二見る寝様かな という一茶の句があるように、江戸時代から初夢に見ると良いといわれる縁起物です。富士山は縁起のよいものの筆頭だったわけです。

この三種を一図に描いた江戸期の絵画・絵皿などが数多く残されているところを見ると、かなり巷に浸透していた話と思われまます。

しかし、なぜ富士に鷹・茄子が続くのでしょうか。実に謎めいた取り合わせです。

ことわざ事典などに載る多くの説の中から主なものを拾ってみましょう。

①駿府の名物を列挙した。

②駿府の高いものの順。すなわち富士の高さ、鷹は高く飛ぶ(あるいは富士に次ぐ高山としての愛鷹山の略称)、初茄子は値段が高い。

さらに、これらを唱えたのは徳川家康だというおまけの話まであります。

③富士は不死に通じ長寿を意味する。鷹は高・貴と同訓で出世する。茄子は実がよくなり無駄花

がないので安産で子はよく育つ。

④富士は高く、鷹は掴み取る、茄子は「成す」を意味する。

探せばまだあるのでしょうかがこの辺にしておきましょう。所詮これらは俗説であり、今いずれが正しいのか審議するつもりはありませんので。

恐らく江戸庶民の俗説ですからそもそも定説などなく、八つぁんと熊さんと大家さんが立ち話で「いやー！そうじゃねえ」と結論の出ない議論を楽しんでいた、楽しむことに意義があったのではないのでしょうか。

富士信仰が流行り、庶民の間でも富士講と称する富士登山が行われた江戸時代であれば、八つぁん熊さんの周りにも富士山頂を極めた人がいて土産話を自慢げに語っていたかもしれません。

勿論、茶道具にも富士は欠かせません。茶入の釉薬の景色を富士に見立てた銘はよくあることです。光悦の白楽茶碗<不二山>は国宝の指定を受けるほどの名品です。

<http://www.shinshu-online.ne.jp/museum/sanritsu/sanritu2.htm>

<http://www.morita-fumiyasu.com/>

～ Copyright (C) 2011 ～私の書齋～ 森田文康. All Rights Reserved.～